

高く感じる「キャベツ」 高くても買う「タマネギ」

タキイ

タキイ種苗は先月、全国の20〜60代の男女310人を対象とした「野菜」に関するアンケート調査（期間

11月6日〜9日）を実施、結果を「2020年野菜の総括」にまとめた。本調査は今年で6回目となる。

今年、例年比べて野菜の値段が高かったと思う人は75.5%、昨年より11割増加した。特に高いと感じられたのは、1位「キャベツ」、2位「レタス」、3位「キュウリ」、4位「トマト」、5位「ハクサイ」だった（左下表）。

多くの人が野菜の値上がりを実感していた中、値段が高くても買う野菜には、1位「タマネギ」、2位「キャベツ」、3位「ジャガイモ」、4位「ニンジン」、5位「トマト」が挙がった（左下表）。以上5つは、今年食べる機会が多かった野菜の上位5品目にも入っている。

がダントツの1位となり、以下「キャベツ」（9.4%）、「タマネギ」（8.7%）、「ジャガイモ」（5.8%）、「ニンジン」（5.5%）と続いた。

年々ニースが高まるカット野菜の購入経験については、81.6%が「購入経験あり」と回答。昨年より1.9割増となり、3年連続で増した。特に20〜30代女性と30代男性で9割を超えており、若い世代を筆頭に普及していることが分かる。

きる点が、最も支持されるポイントとなったようだ。また、コロナ禍において、社会生活のあらゆる場面でソーシャルディスタンスを保つ方法が模索された今年、46.5%の人に「非接触での野菜の購入経験」があることが分かった。具体的な購入先として最も多かったのは「無人直売所」（45.1%）、僅差で2位は「スーパー」や量販店などの宅配サービス（生協、西友、イオンなど）（44.4%）となり、以下「農家直送品」（31.3%）、「野菜宅配サービス」（Oisix、らでいっしゅほーやなど）（20.1%）、「ショッピングモール系ECサイト」（Amazon、楽天市場など）（12.5%）と続いた。野菜販売のドライブスルーは4.9%だった。

例年比べて高いと感じた野菜

1	キャベツ	40.6%
2	レタス	31.0%
3	キュウリ	28.7%
4	トマト	27.1%
4	ハクサイ	27.1%

値段が高くても買う野菜

1	タマネギ	26.1%
2	キャベツ	21.3%
3	ジャガイモ	20.3%
4	ニンジン	20.0%
5	トマト	18.7%

また、例年比べて購入量が増えた野菜は、「モヤシ」（20.6%）

「料理の時間が節約できる」（51.0%）、「一度に使う量がちょうどいい（使い切れる）」（45.5%）、「値段が手ごろ」（35.2%）の順に多かった。コロナ禍で自炊機会が増える中、カット野菜の使用で調理時間が節約で

「野菜宅配サービス」（Oisix、らでいっしゅほーやなど）（20.1%）、「ショッピングモール系ECサイト」（Amazon、楽天市場など）（12.5%）と続いた。野菜販売のドライブスルーは4.9%だった。